
生徒会の新入り？

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生徒会の新入り？

【Nコード】

N7349Y

【作者名】

？紫苑？

【あらすじ】

タイトルは後で変えるかもしれません

あの、生徒会に常識人が！？

生徒会にもう一人の男子がいた

そいつはあの子の双子の兄で、鍵と深夏のクラスメイト！

存在しえないプロローグ（前書き）

初めまして？

または、こんにちは？

存在しないプロローグ

ルール1 神の存在を受け入れる

ルール2 彼らに直接触れてはいけない

ルール3 友達の友達は我ら、それが干渉限界

ルール4 《企業》の意向は何よりも優先される

ルール5 《スタッフ》は、個人の思想を持ち込むな

ルール6 情報の漏洩は最大にして、最悪の禁忌である

ルール7 我らが騙すのはヒトではなく神であることを忘れてはならない

ルール8 このプロジェクトに道徳心は必要ない。すべては利益のために

ルール9 性質上《学園》の《保守》は最大の命題である

追加ルール 今年の生徒会には気をつける

特にヤツに手を出してはならない

はぁゝ 今日も駄弁るだけかぁゝ（前書き）

> (_ _) <

はあゝ 今日も駄弁るだけかあゝ

「世の中がつまらないんじゃないの。

貴方がつまらない人間になったのよっ！」

会長がいつものように小さな胸を張って何かの本の受け売りを偉そうに語っていた。

僕がスルーする中、鍵はなぜか感銘を受けていた

「じゃ、童貞もそんなに悪くないってことですか？」

「ぶっ！」

鍵はやっぱり鍵だった・・・

「今の私の言葉から、どうしてそんな返しが来るわけ？」

それは僕も同感だ

「甘いですね会長。俺の思考回路は基本、まずはそっち方面に直結します！」

まあ鍵だからね

「何を誇らしげに！ 杉崎はもうちょっと副会長としての自覚をねえ・・・」

「ありますよ。自覚。この生徒会は俺のハーレムだという
自覚なら十分」

・・・

「ねえ 鍵？ 僕も生徒会の一員だっことをお忘れなく。」

「っ！ (ゾワッ) あっああ もちろん忘れてないよ」

「ふうん。じゃあ僕もハーレムの一員だっことを？」

「ちっ違っよ」

「まさか 鍵がホモだったとは・・・
ひくわー」

「違うぞ！？ 誤解すんな！ ソラ！」

「じょーだん じょーだん。 だってそういう人なら
友達になってないもん」

「(ビクッ) そっそうか。 よかった」

ふう 鍵には困ったもんだ

皆来るの遅いな

あの2人の会話に入りたくないし 暇だ！

ガラガラ

「キーくん。あんまりアカちゃんイジめちゃだめよ
後、カイくん スルーじゃなくて助けてあげなさい？」

そっついながら、会長と同じ3年の書記である女性
知弦先輩が入ってきた。

ちなみにカイくんとは、僕のこと。

僕の名前は『夜空』だから空を取って英語に変換してスカイ
スカイからスをとって カイくん

「スルーっていうか関わりたくないの、聞いてませんでした。」

「にゃわ！ ううゝ 知弦ゝ水無瀬がいじめるようゝ」

「よしよし カイくん気持ちは分かるけど
遠まわしに言うようにしなさい」

「えっ！？ 知弦！？ 気持ちわかるの！？」

「・・・（^―^・）」

知弦先輩が慈愛に満ちた目で会長を見つめる

はあゝ 今日も駄弁るだけかあゝ（後書き）

どうでしたか？

めたぼりつくしなぞろーむ！(前書き)

更新しますたw

めたばりつくしんどろーむ！

今度は知弦先輩を加えての

3人の話が始まった（ちなみに3人とは、会長、鍵、知弦先輩のこと）

「で、知弦さんは俺との愛を育みに来てくれたわけですね！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・あ、うん、そうね」

鍵は知弦先輩にうわの空で言われていた。

「く・・・・・・・・。しかしこういうクールキャラこそ、惚れたら激しいに違いない！」

「あ、それは正解。激しいわよ、私。小学校で、初恋の子に一日三百通『好きです』だけを羅列した手紙を渡して、果ては精神崩壊まで追い込んだから。意外と脆かったからそこで、恋は冷めちゃったけどね。・・・貴方はどうかしら。」

細目で口元に薄ら笑いを浮かべながら

鍵を見つめる知弦先輩

「分かりました」

「え、この話聞いた上で覚悟できたの？」

私のすべてを受け容れるって？それ、ちょっとポイント高いわ、キー君。確かにキー君フラグが私の中で若干

」

「知弦さんとは、体だけの関係を目指すことにします！心はいりません！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・。・・・・・・カイ君は？」

「僕ですか？僕はただで精神崩壊するようなやわな精神してませんので、受け容れますよ？」

「本当？私の中のカイ君のフラグがかなり上がったわ」

「そうですか。よかったです」

「むうゝ 微妙な反応ね」

知弦先輩は僕の反応を見て、おもしろくなさそうな顔をした
なぜだろう・・・

そんなことを考えていると
会長が勝手に知弦先輩のスナック菓子に手を伸ばして
いるのに気が付いた

何故、お菓子がここに？

スナックが会長の口に入る直前で、
鍵が忠告する

「太りますよ」

「うぐつ。・・・だっ大丈夫。栄養を、背と胸に回すんだもん！」

「いいですけど。腹回りに回った時のリスクは多大なものがありますよ」

「だ、大丈夫！私ほら太りにくいから！」

「胸と背も発達しにくいですがね」

「……ええい！ はむ！」

あつ食べちゃった

僕は知弦先輩とアイコンタクトをし、

「ねえ、カイ君。この問題の回答って何か分かる？」

打ち合わせ通りに聞いてくる。

「ここですか？ここの回答は、『メタボリックシンドローム』ですね」

「そう。ありがとう。」

「……………」

思った通り、会長はテンションが下がっていた

だいじょーぶ！

「大丈夫ですよ、会長。もし、もらい手がなくなったら・・・」

「え？　もしかして・・・太った私でも、好きって
言ってくれるの？　美少女じゃなくなっても？　杉崎・・・あなた・
・・・」

うるうると涙ぐむ会長。・・・相手は鍵だぞ？

「もらい手がなくなったら・・・仕事に生きてください」

「リアルなアドバイス！？」

ほらな？　やっぱり鍵は鍵だから・・・

「会長。」

「なに？ 水無瀬？」

「太ったら、ダイエットして痩せればすむはなしじゃないですか」

「そ、それはそうね。」

「でしょう？」

はあ 鍵のフォロー・・・めんどくさっ

知弦先輩は本格的に宿題に取り組み始め、
会長は開き直って食べ始めたスナック菓子に夢中。

本当に太るんじゃないか？ 会長。

ダイエットも長続きしなさそうだし・・・

ガラガラ

「おっくれましたあー」

「すつすいません」

対照的な態度で入ってくる2人。

前を歩く元気少女、椎名深夏は鍵と同じく副会長で更に僕と鍵のクラスメイトである

この生徒会は人気投票で選ばれてるから

当然美少女。

特定の部活こそ入っていないものの、運動神経が良くボーイツシュ・・・というか男口調。

快活で爽やかなことから、男子人気もさることながら、女子人気もかなり高い。しかも稀有なことに、

その本人からして百合気味なため、人気はうなぎのぼりだ。

ただ・・・それだけに、鍵みたいな男は嫌いらしく、

同じクラスで同じ副会長という立場も手伝って、

すぐに鍵と敵対する傾向にある

・・・僕はなぜか嫌われてないみたいだけどね・・・

だいじょーぶ！（後書き）

時間がないので、今日はここまでにします
短くてすいません>（――）<

あー・・・（前書き）

お気に入り登録がもう8件もありました！
ありがとうございます！

あー・・・

そして、その背後からペコペコと僕たちに頭を

下げつつ鍵と視線が合うと焦ってはずしてしまふ少女が、
椎名真冬、深夏の妹で一年生。会計だが、この生徒会では
あまり分担は関係ない。

この子がまた、姉の深夏に全部元気を吸い取られて

生まれてきたような儚げな子で、その上男性が苦手という。
まあ・・・・・・・・男性嫌いの原因は、確実に深夏だけど・・

（姉の百合趣味の毒牙にかかり、男性は怖いものだと
思い込まされているみたいだ）

色素の薄いストレートヘアと白い肌、そしてちょこんと
つけた、リボンがチャームポイント。

二人が席に着くなり、
鍵が話しかけた。

「そうそう 深夏と真冬ちゃんは、『初めての時はあんなにおもしろかったのに』」

みたいなことって、なんかあるか？」

僕には聞いてくれないのか・・・

「まっ真冬はお化粧・・・・・・・・コスメですかね」

へえ

意外だな

「化粧？」

「はい。子供の頃は母親がしているのを見て、すごくしたくてしたくて

仕方がなかったんです。それで、中学生の頃、初めて自分のコスメを買ったときは嬉しくてたまらなかったんですけど・・・・・・・・。よく考えると真冬、あまり自分を着飾るのって好きじゃなかったみたいで、

最近だと、最低限のことしかしたくないといいますが・・・・・・・・。」

なるほど

「なるほど 真冬らしいな

僕的にはメイクで自分を偽るよりはそのままの方がいいと思うな。

真冬はそのままでも十分かわいいと思うし」

「そっそうですか？ あっありがとございます。」

「こら、夜空！あたしの前で妹を口説くな！」

「えっ ああ ごめん。」

ふむ。 それでは深夏の前じゃなければ、真冬を口説いていいと言っことになるな
しないけど

「そういえば、キーくんは《優良枠》で
入って来たんだっけ。……………とてもそうは思えないのに」

それは……………同感だ

ちなみに僕は優良枠でも入ることはできたが……………
人気投票で上位だったのでそっちで入った。

女子は男女共通の憧れみたいな感じだけど、

男子は男子から反感を買ってイメージがあるのに
なんで、

女子「夜空くん！　がんばって！」

男子「ソラさん！　頑張ってください！」

と、女子からも男子からも言われるんだろう

天の声『それは、あなたがかっこいいし、嫉妬して向かってきた男子を

一瞬で蹴散らすからですよ』

？　なんかきこえたような？

あー・・・(後書き)

短いすかね？

おっと、トリップしかけてた・・・（前書き）

お気に入り登録が13件ありました！
かなりうれしいです！

空「こんな駄文を登録してくれてありがとう」

でわ、 本編です！

おっと、トリップしかけてた・・・

おっと、トリップしかけてたよ。

「そうさな・・・、まず割と現時点で好意的な真冬ちゃんを皮切りに、会長、深夏そして知弦さんと、徐々に難度が上がっていく感じで問題を解いていき、気づけばあら不思議、皆俺の虜に

」

？ 何だこれ？

ああ、鍵が攻略しやすい順番か

「違うな鍵、僕てきには真冬、知弦先輩、深夏、会長だと思っ」

「なんで？」

「真冬はまあお前も分かるだろ？で、知弦先輩は意外と押しに弱いと思うし、深夏は鈍感だろ？で、会長はまず、根本的に分かってなさそう。

「なるほど」

まあお前も十分鈍感だと思うけどな・・・

「・・・真冬はオトしやすいのですか・・・」

ああ！ 真冬が落ち込んだじゃった・・・

「私はカイくんにそんな風に見られてたのね・・・」

なんか・・・こわっ！

「アタシは鈍感じゃねーぞ？」

あわれ 守！

「私は分かつてるもん！」

「例えば？」

「えっえ〜と・・・」

分かってないじゃん 会長・・・

「えっと？」

「うう〜」

「カイくん アカちゃんをあまりいじめないでね？」

「はいはい。」

つまんねっ

その後は鍵がハーレム宣言したり、
会長がダメ人間発言したりと・・・
そんな感じで過ごした。

「というわけで、今日は解散しますかあ」

なにがというわけなんだ？

ごめん、話全然聞いてなかったw

まあ解散するんだけどね・・・

おっと、トリップしかけてた・・・（後書き）

いえーい！ 作者と空の雑談！

紫「というわけで雑談しようか」

空「なんで？」

紫「えっ？ なっなんとなく？」

空「はあゝ だるいんだけど？」

紫「ごっごめん」

空「まあいいけど・・・」

紫「ホント？」

空「ああ」

紫「ありがとう！」

空「けど、次回からな？」

紫「うん！・・・時間なくなっちゃったしね・・・」

空「ああ・・・」

紫「じゃあ、またね！」

空「感想など書いてくれるとうれしい……………紫苑が」

今更だけど人物しょうかい

水無瀬 みなせ
夜空 よぞら

身長 182?

体重 男の体重何か興味ないでしょ？

容姿

かっこいい：かわいい
7：3

って感じ

黒髪で肩までの長さ
目の色は水色

性格

クールで毒舌をはく
基本的にめんどくさがりや

趣味

鍵をいじること

読書

ゲーム

パソコン

特技

スポーツ全般

皆からの呼ばれ方

会長 水無瀬

知弦 カイクン

深夏 夜空

真冬 ソラ先輩

鍵 ソラ

備考

運動神経抜群

成績優秀

容姿端麗

だが、性格がちょっと・・・

あれな高校2年生

双子の妹がいるらしい・・・

恋愛に関しては、

まわりの恋愛事情には
すぐ気づくが

自分のことに関しては

鈍感

妹と2人暮らしをしている

字数が足りなさそうなので

バカテスト

社会

問 次の問いに答えなさい

『中臣鎌足は後になんと呼ばれましたか。』

紅葉知弦・椎名深夏・椎名真冬の答え
「藤原鎌足」

作者のコメント

こう見てみると

生徒会は頭のいい人が多いのに・・・

杉崎鍵・水無瀬夜空の答え
「藤原かたまり」

作者のコメント
あなたはふざけないでください
頭はいいはずなので・・・

桜野くりむの答え

「なかとみのかたまり」

作者のコメント

この人は・・・マジで

そう思ってますね・・・

まだオリキャラは出てくるかもしれませんが・・・

今更だけど人物しょうかい（後書き）

作者と生徒会の雑談！

空「おい 紫苑。」

紫「何？」

空「なぜいきなりバカテストをやり始めた？」

知「それは、私も気になるわね。」

深「アタシも」

真「真冬も気になります！」

紫「あはは・・・なっなんとなく？」

会長以外「「「・・・」」」

鍵「でも、楽しかったよな？」

深「まあな」

会「ねえ杉崎？ この問題って何年生の問題？ 難しかったけど・・・」

鍵「これは・・・中学一年生の問題ですね」

会長以外「」「」「」……」

紫「あはは……じゃあねー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7349y/>

生徒会の新入り？

2011年11月27日08時55分発行